

私のおすすめ

◎このコーナーでは、子育てや障害、認知症・介護当事者の目線から、普段の暮らしに役立つ「おすすめ」なものを紹介します。

「横須賀市障害者施策検討連絡会 ～（自立支援）協議会より前に発足～」

横須賀市には（自立支援）協議会より前に3つ（2018年4月現在）のまとまりを持った障害者団体が連携している「横須賀市障害者施策検討連絡会」があります。来年で発足してから20年になります。

横須賀市障害者福祉計画にも「横須賀市障害とくらしの支援協議会」と並んで施策検討の場への障害者の参画団体として記載されています。

❖よこすか障害者計画（ハートフルプラン21）検討を契機に1999年7月に発足

現在は横須賀市障害者団体連絡協議会（全12団体）、横須賀・三浦作業所連絡会（法内施設に移行しても固有名詞として「作業所」を使っているところも含め47事業所）、まちづくりを進める市民集会（全5団体）が加盟しています。

（設置の目的）

- ①横須賀障害者計画の施策推進を図る－現在は2015年度から2020年度計画の施策の進行について本人や家族・支援者が提言しています。
- ②障害者団体の抱える問題の共有化・相互理解－障害のある当事者・家族・支援者の問題は時に相反すること、優先事項が違うことがあります。まずお互いに共有・相互理解をすることから始めます。
- ③障害者福祉にかかわる施策・制度を検討し、施策に反映させます。

❖活動内容

加盟している団体からほぼ毎月開催する教育・生活支援（医療ワーキング・防災ワーキング）・就労支援の各分科会員を出しています。会全体の方向性や課題の把握は、加盟団体員の誰でも参加できる全体会で決めています。

また、加盟団体から代表者を出し、全体会と代表者会を毎月交互に開催しています。代表者は社会福祉審議会委員（障害者福祉専門委員会では職務代理者）・療育相談センター運営協議会委員・横須賀市障害とくらしの支援協議会全体会委員などに任命されています。

そのほか、毎年6月ごろ開催する市民のどなたでも参加できる意見交換会により、新たな課題が見えてきます。最近ではLGBTの方の発言や、肢体不自由の幼児のお母さんより乳児期からの医療だけでは補えない早期療育の必要性について発言がありました。

予算編成時期には市長あての要望書を作成。提出時

今月は

⇒ 神奈川県自閉症児・者親の会連合会

がお伝えします！

1968年4月設立。県内11地区（横浜市・川崎市を除く）の自閉症児・者親の会による連合会です。行政施策の研究・提言、当事者・家族のためのミーティング運営、療育者等に向けた勉強・セミナー運営等、自閉症児・者と家族の支援や、自閉症スペクトラムの理解を進めるための活動を各市町村及び県に向けて展開しています。

〈連絡先〉  info-kas@kas-yamabiko.jpn.org

 <http://kas-yamabiko.jpn.org/>



には関係部課との懇談をしています。秋には市議会議員との懇談会、市長との懇談、冬にはその年の課題について講師を招き学習会をしています。

❖最近の活動から～防災ワーキングの取り組み～

生活支援分科会の防災ワーキングでは、市の障害福祉課や地域安全課などと連携し市内各地の避難所開設運営委員会に出向き、障害のある人の訓練参加、災害時の配慮について知ってもらう活動をしています。毎年3カ所ほど避難所開設訓練の準備段階から委員会に参加し、訓練当日は近隣に住む加盟団体の会員などが参加して地域の方と接する機会にしています。年を追うごとに、委員会の方に障害のある人が訓練に参加する意味が浸透してきて、配慮してくれるようになりました。

また、防災ワーキングに参加する中で、分かりやすい視覚的な資料を作り委員会に提案できるようになりました。ただ知ってください、理解してください、支援してください、だけではお互いに何をしてよいのかわらず、いつまでも進まなかったと思います。

❖これからの活動課題と展望

20年経つと構成員の交代時期になりますが、どこの障害者団体も新しい会員が増えない状態です。私たちが望んだサービスの充実が進み、多くの困りごとが解決してきているようにも感じます。しかし、制度の谷間に置かれている当事者や家族は相変わらず存在し、どこにも所属しないために、困りごとを社会化する機会のない状況におかれていると思います。困りごとを一人で訴えてもなかなか受け取ってもらえず、その人だけのこととして解決するのでは同じ事で困っている人には届きません。困りごとの社会化のために、これからも多くの声を拾える会になるよう活動していきたいと思っています。